

2021 セントライト記念 「KT師の重賞本命と見解」

過去 10 年のセントライト記念では馬券になった馬のほとんどが前走ダービー組。

特筆すべきはダービーでは 10 着以下の方が
9 着以内よりも複勝率。もちろん複勝回収率も優れていること。

広いコース。軽い馬場。根幹距離。

よりも

小回り。タフな馬場。非根幹距離。

でパフォーマンスを上げる血統馬を狙いたいレース。

本命はタイムトゥヘヴン。

父ロードカナロアは母系を引き出すスピード血統。

母キストゥヘヴンは小回りコース時代の桜花賞馬。距離短縮、小回り歓迎。

キストゥヘヴンは母父がノーザンテースト。

当レースを勝ったキングストレイル、ローゼンカバリー、トーセンシャナオーは
父がサンデー系で母系にノーザンテーストの血を持つ馬。

古くからセントライト記念に相性の良い組み合わせ。

非根幹距離、距離短縮。内回りで大幅にパフォーマンス上げる血統。

2 着だった京成杯は逃げる競馬をしていましたが、
タメる競馬で非根幹距離の方が高いパフォーマンスを発揮する可能性も高いです。

ヴィクティファルスは非根幹距離で今回より短い芝 1800m 重賞で 2 連対。

当レースは 1800m 実績馬も走りやすいレース傾向。

東京よりも中山向きの馬。